

## 財務諸表に対する注記

### 1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況はない。

### 2. 重要な会計方針

#### (1) 有価証券の会計基準および評価方法

すべての有価証券が満期保有目的の債券。償却原価法(定額法)によっている。  
ただし、取得差額が微小であるため、取得価額を帳簿価額としている。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

#### (3) 固定資産の償却の方法

該当なし

#### (4) 引当金の計上基準

該当なし

#### (5) リース取引の処理方法

該当なし

#### (6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

### 3. 会計方針の変更

平成20年度会計基準を採用

### 4. 基本財産及び特定資産の増減及びその残高

基本財産及び特定資産の増減及びその残高は次のとおりである。

(単位 円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期期末残高
基本財産				
投資有価証券	299,955,900	0	△ 59,500	299,896,400
定期預金	44,100	58,950	0	103,050
普通預金	0	550	0	550
小計	300,000,000	59,500	-59,500	300,000,000
特定資産				
特定預金	0	0	0	0
小計	0	0	0	0
合計	300,000,000	59,500	△ 59,500	300,000,000

### 5. 基本財産の財産源の内訳

基本財産の財産源の内訳は次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般定正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
基本財産				
投資有価証券	299,896,400	299,896,400	0	-
定期預金	103,050	103,050	0	-
普通預金	550	550	0	-
合計	300,000,000	300,000,000	0	-

### 6. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりである。

科目	帳簿価額	時 価	評価損益
名古屋市債	29,985,900	30,135,000	149,100
利付国債 10年 第361回	59,970,000	59,178,000	△ 792,000
ソフトバンククリパッケージ債	100,000,000	96,380,000	△ 3,620,000
みずほFG劣後債	60,000,000	59,610,000	△ 390,000
みずほFG劣後債	49,940,500	49,610,000	△ 330,500
合計	299,896,400	294,913,000	△ 4,983,400